



理想的な投資先 マハラシュトラ州

2015年9月

Knowledge Partner



魅力的な投資先としての利点

最高の立地条件

成熟したインフラ環境

豊富な天然資源

企業投資を積極的に支援する州政府

様々な業種の優良企業が拠点設立

インド金融・貿易の中心

技術大学・専門学校等教育機関が多数

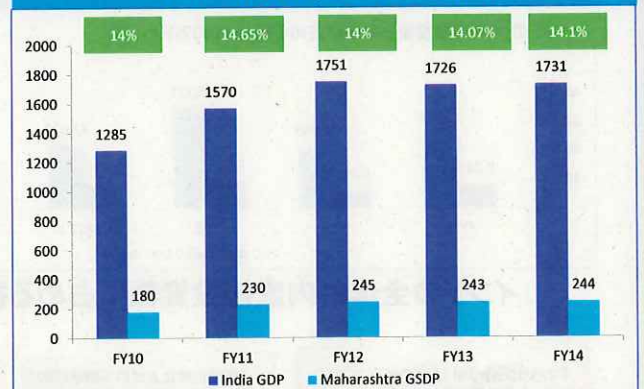
専用の投資促進窓口が設置済み

「シングル・ウィンドウ」手続き

対内FDIの約30%を受け入れる州



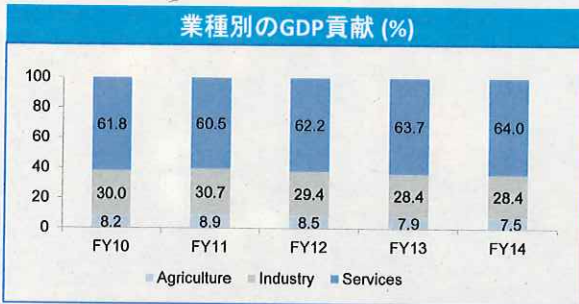
GSDP への貢献 (単位: 10億ドル; %)



インド全体のGDPに占める割合は
約15%

Source: PIB, CSO
Note: GDP at Current Prices

マハーラーシュトラ州経済の概要



1980年以降のGDP成長率は85%とインドでもっとも高い

主体的・積極的に規制改革に取り組む州政府

Make in India (メイク・イン・インディア)政策に沿った取り組みの実施

インフラ・道路等のアクセス改善に向けて積極的に取り組んでいる州政府

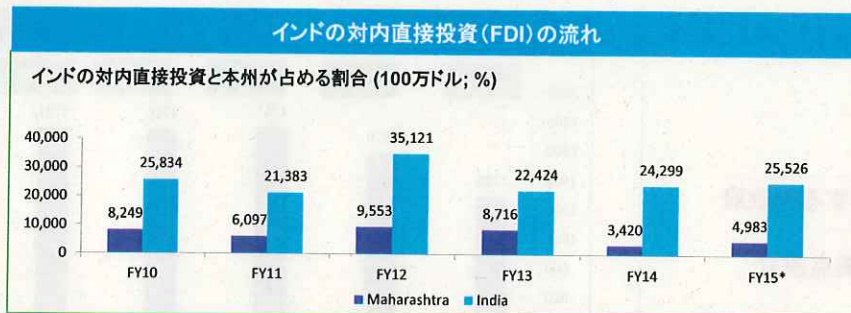
ビジネスしやすい環境に向けた整備を抜本的に推進している

Source: CSO

2

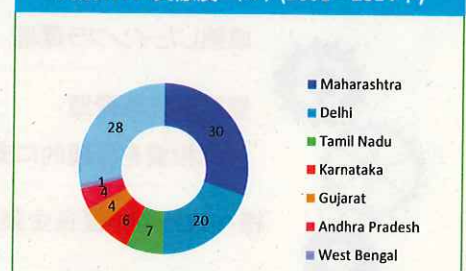
近年のFDI流れ

インドの対内直接投資の最大の割合を占めるマハラシュトラ州



インドの全体対内直接投資額に占める割合は30%

州別のFDI貢献度 (%) (2001 - 2014年)



上記期間中、本州への投資総額は約704億ドルで1位 (2位のデリー州は458億ドルで19%の貢献)。

「マハラシュトラ州は投資先としてグジユラート州の座を奪っている」- Economic Times新聞

「新規企業立上げの手続きが30日以内に完了するマハラシュトラ州」- Business Standard誌

「マハラシュトラ州、今後5年間で5万億ルピーの対内投資額の目標を設定」- IBNMoney

「マハラシュトラ州政府、独IFB、KSPG等の海外企業に生産拠点用の土地を配分」- Times of India新聞

「MIDCはインドの中でもっとも配分可能な土地を持っている産業開発会社のひとつである」- MIDC

Source: Ministry of Commerce and Industry; Press articles

During April 2000 to November 2014

3



マハラシュトラ州の 主要産業プロジェクトの概要



デリー・ムンバイ間産業大動脈構想 (DMIC)

日印政府間協力の下、沿線の各地において、エネルギー・水・交通等が一体となったスマートシティ開発を推進するインド最大規模のインフラ開発プロジェクト

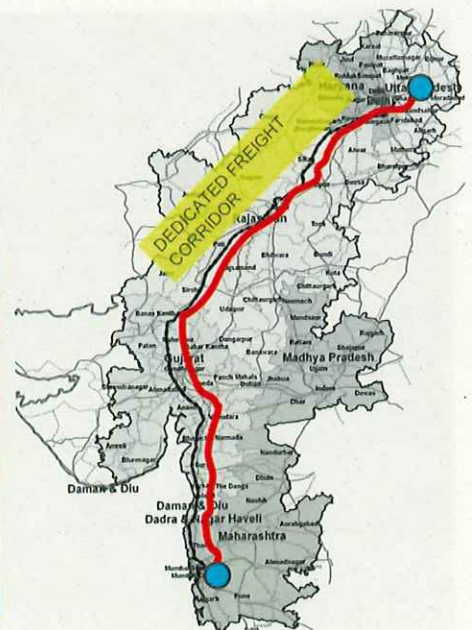
Magnetic
Maharashtra
Attractions Unlimited

DMICプロジェクト概要

- 網羅される区域: 全長1483キロメートルの大型インフラ整備計画
- 投資地域: UP州, デリー州, ハリヤナ州, ラジャスタン州, ゴジャラート州, マハラシュトラ州
- 終点港湾等: デリー首都圏の貨物ターミナルであるトウガラカバード及びタドリ、及びムンバイの Jawaharlal Nehru Port (JNPT) 港
- 実施機関: 特別目的会社 (SPV) DMIC開発公社 (Delhi Mumbai Industrial Corridor Development Corporation)
- 目的: デリーとムンバイの間に、貨物専用鉄道を敷設。周辺に、工業団地、物流基地、発電所、道路、港湾、住居、商業施設などのインフラを整備する。

マハラシュトラ州での取り組み

- 本州の8地区(district)が大動脈沿線にある
- ダヌーロード、ヴィラルール、ディバ地区を通り、終点は本州内のジャワラル・ネルー (JNPT) 港になる計画
- DMIC構想開発により、本州全土の29%の面積、人口の26%が直接影響を受ける
- 指定したノード(産業クラスター)のうち4つが本州に所在する:
 1. シェンドラ・ビドキン産業地区(オランガバード)
 2. イガトプリ・ナシク・シンナル投資地帯
 3. プネ・ケード産業地区
 4. ディギ付近のグリーンフィールド港湾及び産業地区



シェンドラ・ビドキン大規模産業地区の概要

物流網

道路アクセス

国道NH-211号線沿いであり、主要都市ナシク、フネとムンバイからそれぞれ220キロ、255キロと393キロ離れている

鉄道

チカルタナ駅から10キロ、オーランガバード、ナシク、フネ、ムンバイからそれぞれ20キロ、220キロ、255キロ、380キロ離れている

空港

国内空港へのアクセス・チカルタナ空港から10キロ、フネ空港から265キロ
国際空港・ムンバイ空港から380キロ

港湾

JNPT港から389キロの距離



ディギ港周辺の産業地区

物流網

道路アクセス

5つの州道で国道17号線へアクセス可能。主要都市フネから132キロ、ムンバイは154キロ、オーランガバードは381キロの距離

鉄道

インダプル駅から47キロ、主要駅ハヌベルから120キロ、フネから296キロの距離

空港

ムンバイ空港から約296キロ

港湾

ディギ港以外に、JNPTは121キロの距離



マハーラーシュトラ州: 実施中の主要プロジェクト

ナビムンバイ空港、日系工業団地、プネ及びナグプールのメトロプロジェクト

ナビムンバイ空港

- PPPで実施中のプロジェクト。第一フェーズの費用は約25億ドル
- 空港周辺で面積約600平方キロの新都市「NAINA」を開発する予定
- 新規ICAO Aerodrome Code 4F規制に準拠した飛行場計画

Supa - 日系工業団地

- 日系企業による投資を誘致するのが主要目的
- 多業種向けの日本企業専用工業団地をアーメダナー付近の500エーカーの用地に設置する予定

プネ メトロプロジェクト

- 2つのルートでDMICプロジェクトエリアの31.51キロが本州で網羅される
- プロジェクト費用: 約17億ドル
- 実施機関: プネメトロ公社

ナグプールメトロプロジェクト

- 32.21キロの長さのナグプールメトロプロジェクトが2つの路線(南北線、東西線)から構成される
- プロジェクト費用: 約17億ドル
- 実施機関: ナグプールメトロ公社

今後実施されるプロジェクト(1): ムンバイ・トランスハーバー・リンク (MTHL)、MIHAN

マハーラーシュトラ州政府はビジネス環境のさらなる改善及び魅力的な投資先としての位置を維持し続けるために全力を尽くす決意である

ムンバイ・トランスハーバー・リンク (MTHL)

- ムンバイ港を横断し、ムンバイ市とナビムンバイを結ぶ22キロの深海上橋梁のメトロ回路プロジェクト
- 目標: ムンバイ本土側の開発を喚起し促進すること
- 交通渋滞の緩和、解消、低燃費・省エネの促進



MADC - マルチモード国際カーゴハブ空港(MIHAN)

- 本州領域内に入るマルチモード国際カーゴハブ空港(ナグプール) MIHANは、投資額ではインド最大規模のプロジェクト
- 本空港プロジェクトの実施により、ナグプール市はインド中央部という立地的優位性を生かし、今後、国際貨物ハブになる



今後実施されるプロジェクト(2) : IFSC, NAINA

マハラシュトラ州政府はビジネス環境のさらなる改善及び魅力的な投資先としての位置を維持し続けるために全力を尽くす決意である

ムンバイ国際金融センター(IFSC)の設立・運営

- ロンドンの「ハブ・アンド・スポーク」型の都市計画を参考にした国際金融センター
- 目的: BFSI (銀行・金融サービス・保険) 企業への投資誘致とムンバイを投資先として育成すること



NAINA

- マハラシュトラ州政府が指導する新都心プロジェクト「NAINA」は面積が約600平方キロ。新ナビムンバイ国際空港付近
- プロジェクト費用: 約3, 280億ドル



Note: Representative images

10

マハラシュトラ州 と日系企業の良い関係の概要

マハラシュトラ州をベースに運営している日系企業が約600社

日本とマハラシュトラ州の 関係

- 2014年10月時点でインドで現地法人を設立している日系企業数は1, 209社
- 日本からのインドFDI額12. 24億ドル(2014年1月~9月)
- インドで日系企業の拠点(637点)が最も多い州(2位のタミルナドゥー州は577点)

マハラシュトラ州 で運営している主要日系企業の事例



Source: Ministry of External Affairs

11



マハラシュトラ州を支える 産業エコシステムのご紹介

マハラシュトラ州の産業クラスター政策
新事業展開やイノベーションの創出を促進し、IT、バイオ、食料品加工等
さまざまな産業集積の形成

1 **ムンバイータネ間**

1. IT・ITeS
2. 宝石、ジュエリー業
3. 物流
4. 医薬品・化成



6 **ナグプール/アモラワティ**

1. 食料品加工
2. 物流
3. IT
4. 繊維

2 **プネ**

1. 防衛・自動車業
2. IT/ITeS、ESDM
3. 設計・エンジニアリング
4. 化成
5. FMCG

3 **オーランガバド**

1. エンジニアリング
2. 自動車
3. 医薬品・化成

4 **ショラブル**

1. 繊維
2. 食料品加工

5 **Ahmednagar / Nashik**

1. 食料品加工
2. エンジニアリング

マハラシュトラ州のインフラ整備事情

適切に開発されたインフラ体制の概要

鉄道・道路網



- 農村部の99.2%が全天候道路に接続
- インド全国の鉄道網の9.3%が本州にある
- 2つの主要鉄道ゾーンを保有
- 貨物運送を容易にするドライポート、トラックターミナル、鉄道引込み線等充実した物流ネットワーク

空港・港湾等



- 国内空港: 7つ
 - 国際空港: 3つ
 - 滑走路数: 26
 - 中央政府が管理する港湾メジャーポート: 2つ
- (インド全国の貨物運送の21.76%が本州にあるメジャーポートJNPTとMBPTで取り扱われる)
- マイナーポート: 53つ

産業



- 1991-2013年の間承認されたプロジェクト数: 18,500件(合計プロジェクト費用1.65億ドル)
- 上記プロジェクトにより約400万人の雇用創出が見込まれる(インド全体平均の20%)
- さまざまな業種があり、特に製造やIT系が多数

電力



- 州全体の発電量: 約881.4億Kwh
- (全インド平均の10%近く)
- 州全体の電力消費量: 約1億kwh(インド全体の14%)
- 産業により消費量: 380億kwh(同15%)

Source: Economic Survey of マハラシュトラ州, 2013-14

14

熟練した人材が豊富なマハラシュトラ州

教育機関数が約6,000、毎年250万人が新入学



State University Deemed University

20 State Universities and 21 Deemed University

専攻分野	大学数	入学人数
文科系	3300	15,20,000
工学	1,074	5,43,000
建築学	75	10,000
MBA/MMS、PGDM等経営学	516	36,000
ホテル経営	23	868
薬理学	462	38,000
コンピューター学	148	15,000
ITI等工業向け専門学校	766	1,05,000
医学	293	28,500

- 本州で「Center of Excellence」の研究機関を通じて最先端技術等の研究力を育成する政策
- 州内にあるIIT工業大学がインドの中でもトップの大学。
- その他、以下の通り有名な研究機関が多数ある
 - バーバ原子力センター
 - 研究機関C-DAC (Centre for Development of Advanced Computing : 先端電算処理開発センター)
 - 国立環境工学研究所
 - 国立化学研究所
 - タタ基礎科学研究所(TIFR)

Source: Economic Survey of マハラシュトラ州, 2014-15 Provisional Data

15

ビジネスを支援するマハラシュトラ州の政策

競争力強化・構造改善に資する政策支援の強化

財政的な支援

- VAT + CST 税率の緩和措置
- 印紙税の免除
- 電力税の免除

その他にもあらゆる面での優遇措置を提供

- スキル開発
- 窓口一本化(ワンウィンドウサービス)
- 投資家支援サービス
- 投資後の相談窓口

その他の支援措置

特別措置

「メガプロジェクト」や「ウルトラメガプロジェクト」と定義された大規模プロジェクトに関しては、**固定資本投資額の100%を上限とする財政的な優遇措置**を提供。

州政府により定義された雇用創出の2倍以上の創出が発生した場合、**追加10%の優遇措置**

より良いビジネス環境作りに向けた主な取り組み(1)

建設に関する承認



- 処理期間の短縮化(162日間から50日間)
- 必要手続きの件数の削減(27から11件)
- 申請手続きのオンライン化

工場等の電力化



- 必要手続きの件数の削減(7件から3件)
- 処理にかかる期間の短縮化(67日間から15日間)
- 申請書、書類提出等の手続きのオンライン化

土地等の登録



- 登録機関 (Sub Registrar) の電子化
- 主要都市・区域で登録書発行手続きの電子化
- GBAR やe-SBTR等を使用して料金のe支払いサービスの導入

ビジネスのしやすさ



- VAT・CST・法人税等の書類の共通化
- 商事訴訟案件の早期解決に向けて高裁にて裁判官の数の増加
- 資産税のe支払いモバイルアプリの導入

より良いビジネス環境作りに向けた主な取り組み(2)

窓口の一本化



- 投資家向け支援部「MAITRI」の新規設置により、より積極的に投資促進に努める姿勢
- すべての政府部署、関係者とコミュニケーションを支援するワンウィンドウサービス体制

土地政策の改正



- 新規拠点立上げのFSI規制を0.2から1に緩和
- ゾーン変更に関する内部決定権の分散化 (divisional Joint Director, Town Planning が責任者)
- 市役所からの産業ライセンス発行制度の廃止
- ムンバイ市街区(MMR)に関し、産業立地承認政策「Industrial location policy」の廃止

環境規制の改善 MPCBの取り組み



- MPCB(マハラシュトラ州汚染管理局)が中央政府DIPPの指示に従い、汚染に関してランダム検査の実施、24時間以内の報告を義務化
- 「川岸規制区域」政策の廃止

労働規制の改定

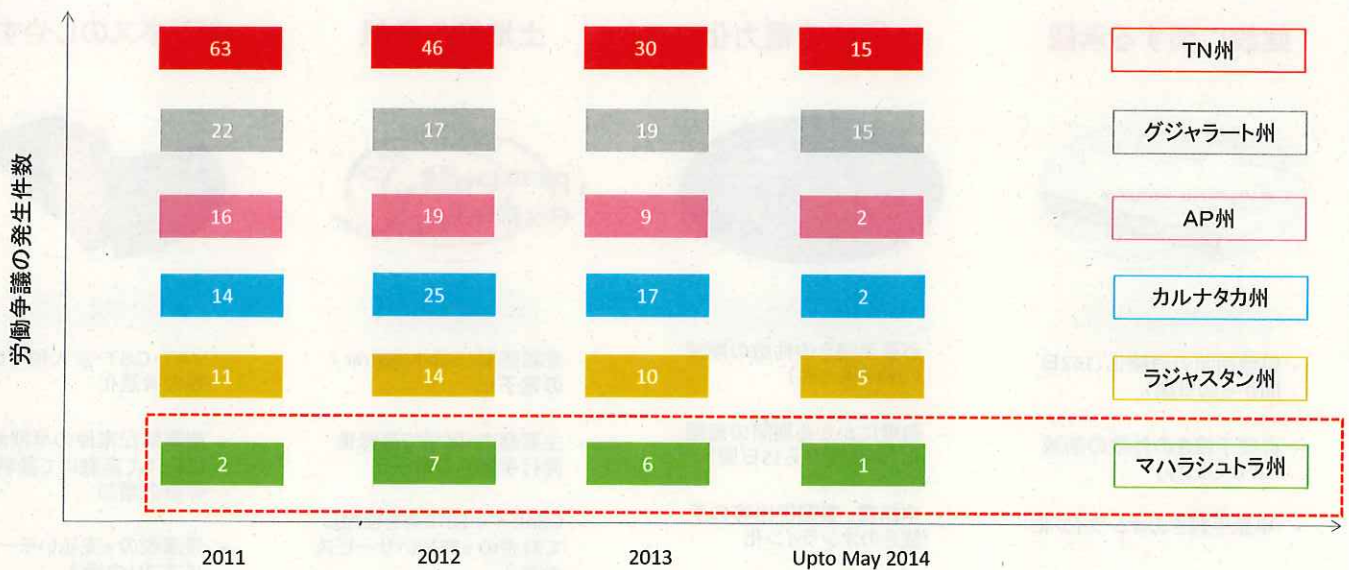


- 16の労働規制に関して書類の一体化、自己証明制度の導入
- 検査に関しては、ランダムな危険度検査の導入と、72時間以内の報告の義務化
- ボイラー設置の認定手続きに関しては自己証明制度の導入

© 2012-2014. All rights reserved. This document is the property of Magnetic Maharashtra. All other trademarks and registered trademarks are the property of their respective owners. The information contained herein is for informational purposes only and does not constitute an offer or any other financial product. The information is subject to change without notice. The information is subject to change without notice. The information is subject to change without notice.

労働争議の発生率が低いマハラシュトラ州

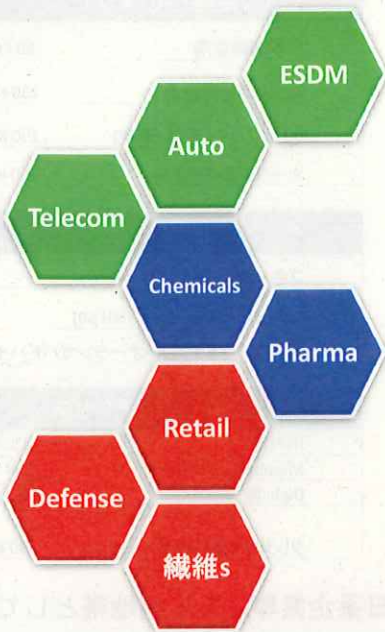
インドの中でも特に産業フレンドリーな州として評価されている



Source: Ministry of Labour and Employment, GoI

© 2012-2014. All rights reserved. This document is the property of Magnetic Maharashtra. All other trademarks and registered trademarks are the property of their respective owners. The information contained herein is for informational purposes only and does not constitute an offer or any other financial product. The information is subject to change without notice. The information is subject to change without notice. The information is subject to change without notice.

重要なセクター



- ピンプリ・チンチュワド地区だけでも4,000以上の自動車関係の製造拠点を誇るマハーラーシュトラ州、**インド全体の自動車関連の生産量に占める割合は38%**
- **医薬系の会社が多数集約する**州でもある
- **電子業や防衛産業**を支えるエコシステムが既に整備されている
- **可処分所得が高い人口**が集中し、インドの中で一番発展が進んでいるいくつかの都市が集まっている州
- **農業が盛んで**道路接続が優れている州
- **IT・ITeS セクターの主要ハブ**



マハラシュトラ州における 日系専用工業団地の開発



日本企業専用の工業団地「SUPA」



空港へのアクセス

ブネ国際空港	80 Kms
ムンバイ国際空港	230 Kms
ナビムンバイ空港 (予定)	190 Kms
オーランガバド空港	150 kms

道路アクセス

ブネ-ムンバイハイウェイ
ブネ-ナシクハイウェイ (NH 50)
ブネ-アーメドナガル-オーランガバドハイウェイ

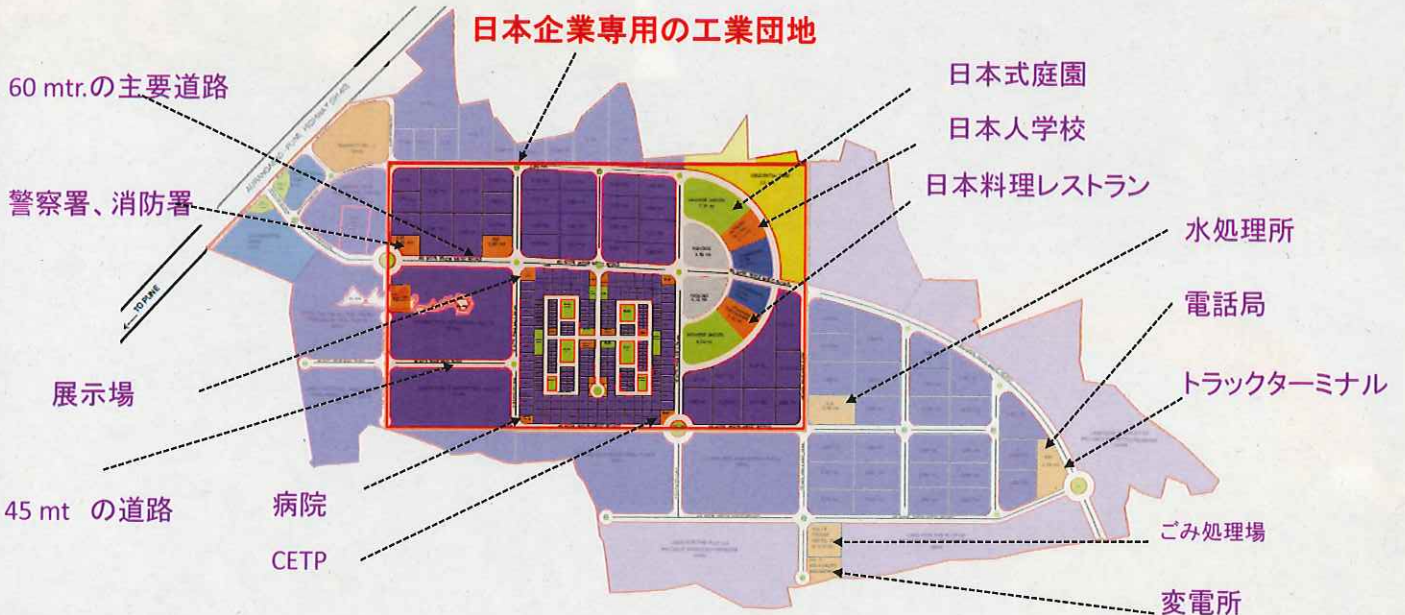
港湾へのアクセス

JNPT港	220 Kms
Mumbai Port Trust港	234 Kms
Dighi 港	262 Kms
タレガオ内陸貨物ターミナル	90 Kms

全領域：2,300エーカー | 第一フェーズで 500エーカー (約202万㎡) を 日系企業専用の工業地帯として開発

スバ日本企業専用工業団地

<開発計画イメージ>



ご関心のある企業の皆様、是非下記の通りご申請くださいませ。



申請開始期間:
**2015年
9月11日から**
<http://www.midcindia.org>

基礎インフラを含む
土地分譲開始:
2016年3月

土地価格
**USD 34.5/
INR 2,200**
(1平方m当たりの値段、
2017年12月までの特
別価格)

「スパ日本専用工業団地」付近に拠点がある主要企業



すべての投資家の皆様を支援する専門機関
マハラシュトラ産業開発公社 (MIDC)



- DMIC
- SUPA - 日系工業団地

- 化学系の産業ゾーン: 13
- CETP: 25
- STP: 3
- CHWTSDF: 4

- アジアで最大規模の水道供給網



- 工業地帯: 264
- 保有土地面積: 約 84,000ha

- ワイン産業の団地
- 銀製品用の団地
- 花卉園芸地帯
- 食料品加工団地・繊維業団地
- IT団地: 32
- SEZ: 9

- 専用フィーダーによる電力の安定供給

主な活動

政策立案機関

行政と業界の架け橋

土地売買・売却・配分

支援インフラの提供

ワンストップ投資家サポート窓口



Knowledge Partner



ありがとうございました。

THANK YOU



Maharashtra Industrial Development Corporation
 Udyog Sarathi, Mahakali caves road, Andheri (E), Mumbai - 400 093
 Board Number: 91-22-26870027/52/54/73 | Fax: 91-22-26871587
 Email: ceo@midcindia.org | Website: www.midcindia.org